

久里浜天神社社報 てんじんさま

H25年12月・H26年1月合併号 第112号
発行所 久里浜天神社社務所
〒239-0831 横須賀市久里 5-19-1
TEL046-835-3703 Fax 835-3503
ホームページURL tenjinsha.or.jp



※次号は2月発行です

本日はよくお参り下さいました

冬の足音が聞こえています。新年のご祈祷について、連日お問合せやご予約のお電話を頂いています。あつという間の一年でしたが皆さんにとって、どんな一年でしたでしょうか。平成25年は富士山の世界文化遺産登録や、東京オリンピック招致決定、景気回復への道筋が見えたりと、明るいニュースが立て続けにありました。そんな中、遅々として進まない被災地の復興、食品偽装事件、人が人を騙したり、傷つけたりと、言葉を失うような悲しい出来事もたくさんありました。現実に向き合うことも大切ですが、平成26年は、気持ちを新たにすがすがしく第一歩を踏み出したいものですね。明治天皇の御製に『目に見えぬ神にむかひてはぢざるは人の心のまことなりけり(神さまに恥じない心こそ誠の心です)』とあります。誰に向かっても恥ずかしくない生き方をすること、簡単ではありません。人間というのは、うまくいかない時、原因を自分以外のもののせいにしてがちです。しかし実際は自分が原因となっている場合がほとんどです。まず自分を振り返り、もっと良い自分に高めていくことが、幸せへの第一歩となるのではないのでしょうか。今月も皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。(道)



お正月

いつの時代にもお正月を迎えるとなぜか心があらたまり、すがすがしい気持ちになるものです。お正月は【年神さま(としがみさま)】が訪れ一年の幸をもたらすとされます。家々ではしめ飾りをし、門松を立てて神さまを迎えます。

【しめ縄】は神さまのいらっしゃる清らかな場所を示すもので【門松】は神さまをお招きするしるし【依代(よりしろ)】といえます。【年神さま】は私たちの祖先とも考えられ、お正月には祖先が私たちに祝いに来るといふ意味もあるとされます。



【鏡餅(かがみもち)】を飾り、【お雑煮(ぞうじ)】をいただきお正月をお祝いします。こうした習わしは、秋にとれた新米でついたお餅を神さまに供え私たちがいただくことで稲に宿る魂「生命の力」をいただく意味がこめられています。【お年玉】も昔はお金でなくお餅が使われ、やはり「たましい」「玉」を戴くものでした。1月11日の【鏡開き】で、鏡餅を刃物を使わずに大切に手や槌で割り開くのもこうした信仰にもとづいています。一年ごとに新しい生命の力をいただきいつまでも変わらない世の平安をお祝いするお正月は、口々に「おめでとー」と挨拶がかわされます。緑豊かな門松もお節料理も、いつまでも変わらないおめでたさを込めたものなのです。参考『氏子のしおり』第38号



天神さまの豆知識

新年を迎えるにあたり

今回は新年を迎えるにあたり、私たち一人一人が自らの心を今一度見直すため、明治天皇が發布された文章を掲載致します。

◆「私たちの祖先は、国を建て初めた時から、道義徳徳を大切にす、という大きな理想を掲げてきました。そして、全国民が、国家と家庭のために心を合わせて力を尽くし、今日に至るまで美事な成果をあげてくることのできたのは、わが日本のすぐれた国柄のおかげであり、また、わが国の教育の基づくところも、ここに



信頼と感謝、思いやりと勇気を

あるのだと思えます。●あなたを生み育てて下さった両親に「お父さんお母さんありがとう」と感謝しましょう。●兄弟のいる人は、「一緒にしつかりやろうよ」と仲良く励ましあいましょう。●縁あって結ばれた夫婦は、「二人で助けあっていこう」といつまでも協力しあいましょう。●学校などで交わりをもつ友達とは、「お互い、わかってるよね」と信じあえるようになりましょう。●また、もし間違ったことを言った時は、すぐ「ごめんなさい、よく考えてみます」と自ら反省して、謙虚にやりなおしましょう。●どんなことでも自分ひとりではできないのですから、いつも思いやり

の心をもって「みんなにやさしくします」と博愛の輪を広げましょう。●誰でも自分の能力と人格を高めるために、学業や鍛錬をするのですから。●「進んで勉強し努力します」という意気込みで知徳を磨きましよう。●さらに、一人前の実力を養ったなら、それを活かせる職業につき、「喜んでお手伝いします」という気持ちで公(おおやけ)世のため人のため働きましょう。●ふだんは国家の秩序を保つために●必要な憲法や法律を尊重し、●和と国民の安全が危機に陥るような非常事態に直面したら、愛する祖国や同胞を守るために、それぞれ立場で「勇気を出してがんばります」と覚悟を決め、力を尽くしましょう。今述べたようなことは、善良な日本国民として不可欠の心得であると共に、その実践に努めるならば、皆さんの祖先たちが昔から守り伝えてきた日本的な美徳を継承することにもなりましょう。このような日本人の歩むべき道は、わが皇室の祖先たちが守り伝えてきた教訓とも同じなのです。かような皇室にとっても国民にとっても「いいもの」は、日本の伝統ですから、いつまでも「大事にしていけます」と心がけて、守り通しましょう。この伝統的な人の道は、昔も今も変わることはない、また海外でも十分通用する普遍的な真理にほかなりません。そこで、私自身も、国民の皆さんと一緒に、これらの教えを一生大事に守って高い徳性を保ち続けるため、ここで皆さんに「まず、自分でやってみます」と明言することにより、その実践に努めて手本を示したいと思えます。『明治神宮崇敬会刊『たいせつなこと』より』◆

もうお分かりかもしれませんが、これは教育勅語の意識です。明治時代の教育の基本理念と言われ、戦前の学校教育で用いられていました。戦後GHQの占領下で教育勅語は排除され、教育基本法が制定された後は、教育勅語は学校教育から完全に消えてしまいました。しかし、良いこともたくさん書かれています。明治という多くの日本人が活躍した発展著しい時代、教育の礎になったといわれるこの勅語には、人として忘れてはならないことがたくさん含まれている気がします。